

廃ガラスR事業を開始

アヤシロびんを軽石状資材に

土木・碎石事業や廃棄物処理事業を展開するアヤシロ（滋賀県草津市、綾城正壽社長、

☎077

・563

・777

7)は、廃

ガラスリ

サイクル

事業を開

始した。

昨秋に再

資源化プ

ラントを

本格稼働

させ、廃

ガラスび

んを原料

に、多孔質軽量発泡資材「スーパール」を製造。リサイクル資材として販売する他、白社土木事業などで活用する。

稼働した再資源化プラントは、滋賀県栗東市の同社栗東下戸山工場に設置。トリム（沖

縄県八重瀬町）製のプラント一式を導入し、

原料ホッパー、投入コンベアー、ガラス破砕

機、カレット粉砕機、

粉体移送装置、振動ふ

るい機、混合攪拌装置、

焼成炉などの機械装置

と各自動制御装置を備

える。廃ガラスを色ご

とに選別せずまとめて

破砕し、カレット化し

た上で、さらに細かく

砕き粉化する。ふるい

に掛けて異物を取り除

き、発泡剤などの添加

材を混ぜて焼成発泡さ

せ、軽石状の多孔質軽

量発泡資材「スーパ

ール」を製造する仕組

みだ。

スーパールは透水

性・保水性ともが高く、

耐火性も備え、環境に

も優しい資材。添加材の配合や焼成条件を変

えることで比重や吸水

率の調整が可能で、地

盤材や盛土材、土壌改

質材、水質浄化材、農

業用の培土、園芸資材、

建設現場では断熱、ブ

ックとして使われるな

ど、さまざまな用途開

発がされている。

現在は滋賀県下の一

廃ガラスびんを中心

に取り扱う。業者から有

価でも買い取って

り、月間製造量は約6

00立方メートルとなっ

てい。製造能力は最大

で月間900立方メートル

あるため、今後は有価

での回収を強化して幅

広く原料を確保してい

く。併せて、滋賀県の

リサイクル製品認定制

度（ピワクルエコシ

ン

ン

ン

ン

ン

プ)の認定も取得し、製品の認知度向上と利

用先の開拓に努めてい

く考えた。

同社は1972年の

創業。土木事業や碎石

で40年以上の歴史を持

ち、特に碎石分野で実

績を重ねてきた。そう

したなか、土砂崩れな

どの災害対応からがれ

き類の処理やRCなど

の再生資材を扱うよう

になり、廃棄物・資源

循環分野へと事業を拡

大。今回のスーパ

ール事業も、碎石商品の

拡大と資源リサイクル

の双方に資する事業と

して展開する。同社は

「スーパールは機能

性が高いだけでなく、

低環境負荷や資源の循

環利用にも貢献できる

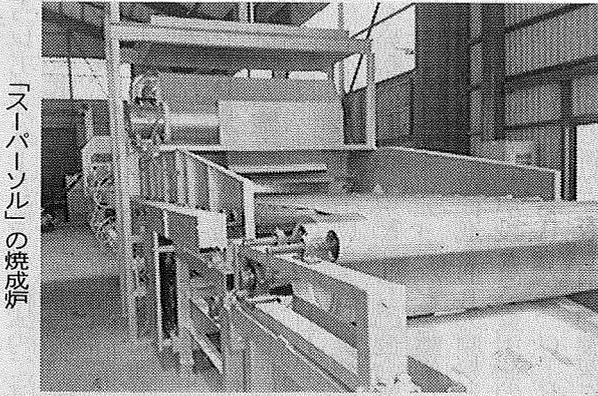
「三方よし」の資材。

水分野や園芸関係な

ど、より幅広い分野で

の使用を進めていき

たい」と抱負を語った。



「スーパール」の焼成炉